

美術作品収集方針等の県民説明会の意見概要

説明会等	日時等	参加者数等
県民説明会(県教育委員会主催) 倉吉会場	9月13日(火) 14:00-15:30 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール	約70名 会場発言者6名

(会場発言者①)

- ・複数のブリロの箱は全部本物でなければダメか？
 <尾崎美術振興監 本物とコピーの区別を無くするのが作家のコンセプトなので、買える数を購入した。
- ・美術館の成功を願っているが、批判に晒されるリスクは考慮の上か？
 <尾崎美術振興監 ウォーホールはリスクではなく権威。若い作家の作品を購入するのもリスクあるが育成する使命もある。

(会場発言者②)

- ・ウォーホールの記事を見ると経緯も理由も無くビックリして県の対応の不信感を抱いた。
- ・今まで出前説明で「県民立」と強調されてきたので肩透かしを食らってショック。
- ・ブリロの箱を買う意義は説明で分かったが、3億円の価値が子どもたちに還元されるか期待と疑問を持つ。
- ・購入理由の「強くしなやかな思考を身につける」というのは、まさにラーニングセンターの任務。しっかりラーニングセンターの機能を強化してほしい。
 <梅田美術館整備局長 話題を起こしたブリロの本物を見てもらえるのも学習、子ども達の教育にしっかり活かしていく。

(会場発言者③)

- ・資料の写真のようにブリロの箱を陳列台に並べるのは作家へのリスペクト感じられない。
- ・展示をする際にはウォーホールがしたように当時の音楽を流すとか工夫を。
 <尾崎美術振興監 資料の写真は取材用で展示ではない、開館記念展での展示はご指摘を参考に検討していく。
- ・県外からアーティストを招聘して公開制作で人を呼べる作品をつくってほしい。
 <尾崎美術振興監 同じことを我々も考えていて、レジデンスプログラムやワークショップの作品も購入できるよう収集方針に加えた。

(会場発言者④)

- ・ウォーホールの作品が素晴らしいか自分には分からないが、一つの問題提起であり、美術館に求心力を持たせること。
- ・求心力として年間100万人呼べるような発想で美術館の内容を考えて、ただか18万人目標では応援団も長続きしない。
- ・これが鳥取県の21世紀の新しい美術館だと誇りをもって人に勧められるよう、作る側と応援する側が上手くいくようにしてほしい。
 <尾崎美術振興監 新しい事をしていかねばならないと強く思う。応援団にも密な連携を取りながら今後も講演会をしていく。
 <梅田美術館整備局長 大いなる応援に感謝、ウォーホールは既に問題提起となった。県立美術館ができるきっかけで美術の関心を巻き起こしたい。

(会場発言者⑤)

- ・前田寛治に比べウォーホールの作品は小学4年生には無理。
- ・鳥取らしさ溢れるようにしてほしいが、ウォーホールの作品が相応しいのか腑に落ちない。
- ・品格ある美術館であってほしいし総花的にならないで、鳥取らしさ溢れるものにしてほしい。
- ・購入理由の「厳しい現代社会を生き抜かねばならない鳥取県の子ども達」なんて悲壮感漂う。
- ・自分たちが抱いてきた「県民立」のイメージと違う印象。PFI事業者と両輪と言うが心配。
 <梅田美術館整備局長 ご心配は理解。
 美術に対する志向や好みは人それぞれで、一つに捕らわれず自由な価値観を子ども達には持ってほしいし、良い刺激と思う。

悲壮感では決してなく明るい未来が待っていると信じて進めていく。

- ・目玉を作って集客図るは良いかもしれないが、まず県民に愛される親しまれるものになってほしい。
- ＜梅田美術館整備局長＞ そういうことにしていきたい。こういう場をもっと早く設けるべきであった。

(会場発言者⑥)

- ・人は周囲の考え方に左右されやすく、子どもは大人の言葉を信じてしまう。
- ・周囲の大人達が県立美術館に否定的なことを言っていると子どもたちにも影響。
- ・否定的な見方が本当か分からないので、中学校の美術の教科書を確認めると、20世紀の最後にウォーホルが載っている。
- ・自分達も自分の考え方を確認する作業をしていただきたい。
- ・今回の作品購入については、県でどんな議論がされたかネットで確認でき、納得いつている。新聞やテレビで入って来る情報だけで判断するのではなく、自分で探し出して判断材料にして頂きたい。